

下北ジオパークいよいよ誕生！ ～日本ジオパークネットワークに加盟認定されました～

9月9日、東京都内で開催された第28回日本ジオパーク委員会において、下北地域の日本ジオパークネットワークへの加盟認定がなされ、「下北ジオパーク」が誕生しました。

「ジオパーク」とは、地質学（geology）と公園（park）を組み合わせた造語。地球活動の記録を保全し、地質や地形の成り立ちや、それらと人の暮らしの関わりを実感して楽しむ場所と定義され、東通村には、尻屋崎、猿ヶ森砂丘、北部海岸の3つのジオサイト（ジオパークの見学場所）があります。

「下北ジオパーク構想」は、2年前の審査で地域住民によるポトムアップ型の活動が不十分である等の理由で落選となりましたが、8月9～11日に行われた現地審査では、地域資源は勿論ですが、地域住民の盛り上がりや熱心なガイド等も評価され、今回認定に繋がりました。

今後は下北ジオパークとして、ジオツアーを通じた教育活動や観光振興をより一層推進して参りますのでご協力をお願いいたします。



下北ジオパーク認定の瞬間



尻屋崎灯台前での現地審査



ジオサイトで学ぶ中学生

原子力防災と放射線

～第3回リスクコミュニケーション講演会～

9月10日、東通村防災センターにおいて、「第3回リスクコミュニケーション講演会（主催：東通村、協力：（一財）日本原子力文化財団）」が開催され、村民や村内事業者など、約100人が参加しました。

これは、原子力災害が発生した場合、国・県・村を含めた防災関係機関が連携し対応することとなりますが、村民の皆さんにも、村などの指示に従い、冷静に行動していただく必要があることから開催しているものです。第3回目として、原子力防災や放射線に精通されている安田仲宏氏（福井大学 附属国際原子力工学研究所 教授）をお招きし、「原子力防災と放射線」と題してご講演いただきました。

安田氏から、放射線防護対応の基本、東通村地域防災計画（原子力防災ガイドブック）の解説、



安田 仲宏 氏

講演会でのポイント

～普段できることができるように～

- 身の回りの状況と歴史からの想定と教育
 - ・若い世代にも伝えていく必要
 - ・原子力災害は国境を超える
- 普段の放射線量を知るすべ
 - ・環境教育の一環として
 - ・放射線の利用のメリットとデメリット
- 原子力災害下での防護対応
 - ・情報の災害
 - ・できるかぎり被ばくをしないことを念頭においた対応

身の回りの状況などについて、事例を交えてご説明やご紹介がありました。

村は、国策である原子力政策に協力するとともに、安全性の確保を大前提として、原子力との共生による村づくりを進めています。

しかし、福島第一原子力発電所の事故が発生してから、我が国のエネルギー政策は、数多くの課題が山積し、今後のエネルギー政策のあり方が大きな議論となつていきます。

また、原子力災害が発生した場合における対応や体制なども大きく変更され、さらに検討が進められています。

村では、これらの状況を踏まえ、このような講演会をはじめ、様々な取り組みをしていくこととしておりますので、ご理解とご協力をお願いします。